

設計・計画部門


ほんだ りゅうさく
本田 隆作

生年月日 1982年1月兵庫県生まれ
 最終学歴 2008年京都工芸繊維大学
 大学院 工学科学研究科
 業務経歴 2008年(株)昭和設計入社
 現在、建築設計部主任
 ●担当した主なプロジェクト
 2008年 大阪府立大学中百舌鳥門
 2009年 八尾商工会議所
 2011年 姫路赤十字病院管理棟増築
 及び本館病棟改修
 2012年 南風病院
 2013年 道北勤医協一条通病院
 2015年 大正病院産婦人科医院
 2015年 姫路赤十字病院診療棟増築

■青年技術者のことば

「個性とは常に他人との関係のなかで輝く。」この言葉は、ある本からの引用で、私が大切にしている言葉。建築はその場所に建つ限り、周辺環境と必ず関係性を持つ。周辺環境が変われば、その建築の個性も変わる。

プロジェクトを進める時、必ず地域の歴史や風土、周辺環境を調べ、敷地の持つ固有性と、周辺環境との関係性を見出そうとする。地域の周辺環境、歴史の文脈を丁寧に読み、都市との関係を考えることで、その場所だからこそその建築を生み出したいと考える。

設計を行う上で日々意識していること。建築主に対して、要望にきめ細かく対応し誠実に答え、想像を超えた提案をすること。利用者に対して、その立場にたって想像し、機能的で居心地の良い空間を提供すること。設計者として、コンセプトから細部のディテールに至るまで、誰よりもこだわりをもって設計すること。

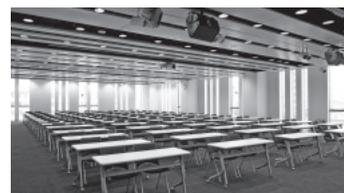
加えて、建築の完成度を高めるのは設計者の情熱である。どれだけそのプロジェクトに真摯に向き合えるかで完成度は大きく変わってくる。建築主から、利用者から、地域から大切にされ、永く使い続けられる、愛される建築をつくりたい。

■すいせん者

鳥居久人
 (株)昭和設計 執行役員


八尾商工会議所

従来の商工会議所と異なり、八尾市役所を併設した「ワンストップ商工振興支援サービスの提供」を目的としたプログラム。外観を特徴づける縞模様の外壁は、八尾地域の主要産業であった「河内木綿」の織り柄をモチーフとしており、縞模様を内外様々なスケール・素材で展開することで、施設利用者に限らず、歩行者や車両からも認識できる地域のランドマーク、地域産業のシンボルとなることを意図した。


姫路赤十字病院管理棟増築

管理棟の増築計画。テーマは「既存建物との調和」を徹底すること。既存建物は、高層棟の本館、敷地外周に低層棟の付属建物が数棟存在する。本館とは遠景的な調和、付属建物とは近景的な調和が生まれるよう、管理棟はそれぞれの既存建物と同じ意匠、材料を用いながら新しい建築の構成を目指した。また、患者や職員から長年親しまれてきた桜の木を保存するため、建物を部分的に削るなどプランを工夫した。


道北勤医協一条通病院

北海道旭川市東部に位置する道北勤医協一条通病院の移転新築計画。このプロジェクトでは地域のための外観デザインとは何かを考えた。1つは地域の景観に調和する外観。もう1つは地域のシンボルとなること。シンボル性を創出するために、建物四隅の外壁を「地域を照らす旭の光」をイメージしたグラデーション状のタイル張りとした。地域のシンボルとなることで、この場所に病院があることの安心感を地域に生み出したいと考えた。

